

営農情報

令和2年3月31日発行

秋まき小麦の起生期追肥について

本年は例年になく積雪量が少ない状況です。これにより例年に比べ融雪が早く進み、現在多くの圃場で小麦が露出していますが、起生期追肥については、早期に実施すると生育ステージが全般に進みすぎてしまう為、以降の肥培管理にも影響が出てしまう可能性があります。そこで、起生期追肥の実施適期については、生育状況及び天候を加味しながら適正な管理を行いましょう。また、下表、起生期の生育に応じた追肥量の目安を記載していますので参考にしてください。

○生育に応じた起生期追肥量の目安

起生期茎数	窒素施用量
1,500本/m ² 以上	2kg
800~1300本/m ²	2~4kg
700~800本/m ²	4~6kg/10a
600本/m ² 以下	4~8kg/10a

※詳しい起生期追肥の適期については、改めて情報を発信致します。

※BB082CRを基肥として使用している場合は、生育量に応じて不足分を補いましょう。

茎数の調査方法について

《条播の場合》

①畝50cm間の茎数を数えましょう。(2カ所)

②2カ所の茎数を足して、畝幅で割りましょう。

【式】 $100 \div \text{畝幅 (cm)} \times \{ (50\text{cmの茎数}) + (50\text{cmの茎数}) \} = \text{m}^2\text{当たりの茎数}$

《大豆間作の場合》

①平均的な2カ所で調査しましょう。

②0.66m×0.3mの広さの中の茎数を数えましょう。

【式】 $2\text{カ所の茎数の合計} \times 5.05 = \text{m}^2\text{当たりの茎数}$

春まき小麦の播種について

上記の通り、本年は融雪が早く圃場乾燥が平年よりも進んでいる為、圃場条件が早く整うことが見込まれます。春まき小麦については、生育期間を長くとることで品質及び収量向上に繋がる為、圃場条件が整い次第、可能な限り早期に播種を実施しましょう！

JAみねのぶ 営農販売課
TEL 0126-67-2334 FAX 0126-67-2803

※ご不明な点が御座いましたら営農販売課までご連絡下さい。